

運動会を振り返って

2022.10.4 校長 西谷 秀幸

先週の土曜日に行われた運動会。2学年ずつでしたが、3年ぶりに同じ日に行った運動会でした。今日は画面を見ながら、運動会をふり返ってみたいと思います。

まず、スタートは3～4年生。

3年生の「台風の目」は、一番内側の子が力強く棒を回したり、外側の子がたくさん走ったりして、チームで協力してがんばっていましたね。

4年生の「棒綱引き」は、「金の棒」、「銀の棒」、そして「綱」と、とにかく頭を使って、作戦を考えながら戦っているのが、見ているだけで分かり、感心しました。

3年生も4年生も、「リレー」は手に汗を握る戦いでした。あるクラスは、「リレー」の順位が練習のときより下がってしまっても、決してミスした人を責めたりしなかった…と聞きました。

また、あるクラスは、アンカーの人が前を走る人を抜かそうと、最後まで諦めず、全力でゴールまでかけぬけていました。その姿に、勝ち負けとは違う感動をもらいました。

次は、1～2年生。

1年生の「はじめの言葉」は、とても可愛かったですね。

1年生も2年生も、「かけっこ」は、最後までまっすぐ走りきりました。

「やってみよう」の曲に合わせた踊った1年生の「玉入れ」は、とても可愛く、そして上手に踊れました。「玉入れ」は、練習で見たときは、あまり勝てていなかったクラスが短い時間に上手になって、一番玉を入れていたことに驚きました。



2年生の「中玉運び」は、きつねダンスをしながらの入場がとても可愛かったですね。校長先生も思わず、テントの中で踊っていました。

競技の方は、最初、簡単そうに思っていたのですが、見ているうちに、すごく難しいと分かりました。4人で力を合わせて上手に運んでいました。校長先生は、勝ったチームも負けたチームも、お互いに気持ちのよい拍手を送って頑張りをたたえ合おうね…と話していたかと思いますが、2年生は、お互いに送る拍手が一番上手だったと思いました。

最後は、5～6年生。

まずは、はじめのことばで、5年生の4レンジャーが笑わせてくれました。

5年生の「リレー」は、バトンパスがとても上手でした。でも、それだけじゃなくて、退場曲が「サザエさん」で、曲に合わせて歌ったり、曲の終わりに揃えて同時に座ったりと、上手なところだけでなく、今までにない「笑い」もあって、大笑いしました。

6年生の「リレー」は、近くで見ていた5年生が「6年生、凄すぎる！」と思わず、つぶやいてしまう程、大人顔負けの走りをしており、ゴール前での大逆転も見事でした。

5・6年生の「騎馬戦」は、ただ騎馬が残っているだけではダメで、1つでも相手の帽子を取らなくては残れない…というルールだったので、上に乗っている人だけでなく、下で支えている騎馬も1つになって、手に汗を握る戦いをしていました。

そして、最後の締めは、6年生の「南中ソーラン」。前半は、組体操で集団の美しさを見せてくれ、後半は、南中ソーランで、迫力ある演技を見せてくれました。一人一人のハッピーの背中に書かれた漢字も印象的でした。カッコイイ6年生の姿は、まさに、成丘小の「新時代」の幕開けでした。

その他に、先生たちは、皆さんが帰ってから、運動会の前や朝早くから準備をしてくれ、運動会が終わった日は、みんなが疲れて帰ったあとに片付けをしてくれました。



皆さんには、忘れないでほしいことがあります。それは、今回の運動会のように、皆さんが楽しかった…とか、頑張ったとか…思ったときには、必ず「皆さんの見えないところで支えてくれている人がいる」のです。このことを忘れないようにしましょう。

これで朝会のお話を終わります。

(裏面に「先生方へ」があります)

〈先生方へ〉

運動会、お疲れさまでした。2学年ずつの分散開催ではありましたが、かわいかった1年生、成長を感じた2年生、エネルギー一杯の3～4年生、笑いと感動を与えてくれた5・6年生。皆さんのチームワーク、そして臨機応変な対応により無事に終了することができました。

さて、今回の児童朝会では、子供たちの表舞台の頑張りをメインに伝えていますが、その一方で、普段なかなか見えない陰の活動について、ほんのわずかですが目に見える形で触れました。日頃から、伝えていただいているとは思いますが、学年の実態に応じて、補足をしていただけると助かります。

話は変わりますが、私は、「アーティストのコンサートは、本人がいないとできないが、本人だけがいてもできない」と思っています。つまり、プロデューサーであり、ディレクターやAD、演出家、音響や照明、大道具…などなど、様々なスタッフがいてこそ初めて実施できるということです。

学校の行事や教育活動も似ています。「子供」という主役がいて、今回こそ係活動はありませんでしたが、多くの行事において、下学年の陰には高学年児童がスタッフも兼ねて働いています。そして、子供たちの裏には、担任がいて、それを支える専科の先生方、事務や用務、栄養士などの皆さんがおり、さらに副校長がいて、地域やPTA、おやし組などの大人がいるのです。

今回、3年ぶりの運動会がうまくいったのは、ひとえに「チーム成丘」によるものだと思います。お互いに支え合っていることにこれからも感謝し合いながら、また次の教育活動に進んでいければと思います。体育主任の三角先生をはじめ、担任の先生方、支えてくれた専科の先生方、裏方で働いてくださった教職員の皆さん、用務さん、これまでの指導、そして、準備・片付けも含めて、本当にありがとうございました。

さて、運動会が終わり、来週8日（土）は童謡まつり、そして、そのあとには、青空集会、11月には音楽会と様々な行事が続きます。すでに準備や指導が始まっているものもありますが、行事と平行して、学習に集中して取り組めるように、学習規律や学習ルールなどを再確認し、徹底してください。ただし、引き締めるところだけでなく、緩めるところとのバランスも必要です。学年や児童の実態に合わせて、よろしく願います。

【資料】 10月について

10月（じゅうがつ）はグレゴリオ暦で年の第10の月に当たり、31日ある。英語での月名、Octoberは、ラテン語表記に同じで、これはラテン語で「第8の」という意味の"octo"の語に由来している。一般的な暦では10番目の月であるが、紀元前46年まで使われていたローマ暦では、一般的な暦の3月が年始であり、3月から数えて8番目という意味である。

日本では旧暦10月を神無月（かんなづき、かみなしづき）と呼び、新暦10月の別名としても用いる。「かみな月」、「かんな月」の語源は不明である。以下のような説があるが、確かなものではない。いずれにしても「神無」は宛字としている。

- 釀成月（かみなしづき）：新穀で新酒を醸す月（大言海による）
- 神嘗月（かんなめづき）：新嘗（にいなめ）の準備をする月
- 神な月（かみなづき）：「神の月」の意
- 雷無月（かみなしづき）：雷のない月

出雲の出雲大社に全国の神様が集まって1年の事を話し合うため、出雲以外には神様が居なくなる月の意味というものがあるが、これは平安時代から言われている民間語源（言語学的な根拠が無い、あてずっぽうの語源）である。出雲では神在月といわれる。出雲へ行かず村や家に留まる田の神・家の神的性格を持つ留守神も存在し、すべての神が出雲に出向くわけではないとされる。